

8月4日(金) 平和登校日のお話

(言葉の言い回しなど、実際の集会では若干異なっている部分があります。)

朝のあいさつをしましょう。おはようございます。

8月に入りましたが、暑さに負けず、元気に過ごしていますか？体調を壊していないですか？夏休みも後半になっていますが、宿題などやるべきことはさっと終わらせて、「これをがんばった」と言えるような夏休みになるようにがんばりましょう。

さて、きょうのお話は、平和についてです。いつも8月6日に行ってきたのですが、今年は、日曜日になるので、8月4日のきょう行うことにしました。

平和についての学習は、毎年しています。6月の初めに6年生は、広島に修学旅行にも行ってきました。サダ子像の前で平和集会をし、折り鶴を捧げました。

きょうは、広島について、少し復習しておきましょう。日本やアメリカなどの国々の間で、当時太平洋戦争が続いていました。そのなかで、1945年8月6日、午前8時15分、広島の上空に原子爆弾が世界で初めて投下されました。亡くなった人の数は約14万人。東大阪市の人口の4人に1人以上の人が、この原爆のために亡くなったといわれています。

広島の場所は、中国地方の中心の街です。大阪から見ると、九州に行く途中にあります。新幹線に乗ると1時間半で着くくらいの距離です。大阪も空襲と言って、空から爆弾が降ってくるのが多く、焼け野原になったといわ

れています。ただ、広島^{ひろしま}の原子爆弾^{げんしばくだん}の威力^{いりよく}は非常に強く、一瞬^{ひじょう つよ いっしゆん}で街全体が破壊^{まちぜんたい はかい}されてしまいました。残^{のこ}った建物^{たてもの}はごくわずかで、そのわずかな建物^{たてもの}の一つが、原爆^{げんぱく}ドームになります。

戦争^{せんそう}のあと、広島^{ひろしま}の街は新しい建物^{たてもの}が次々に造られ、今^{いま}では100万人以上^{まんにんいじょう}の人々が暮らす大都市^{ひとびと く}になりました。ただ、原爆^{げんぱく}ドームは壊^{こわ}さずに、元^{もと}のままでおいてあります。不思議^{ふしぎ}だと思^{おも}いませんか？

きょう、考^{かんが}えてほしいことの一つは、「なぜ、原爆^{げんぱく}ドームは残^{のこ}されているのでしょうか？」ということです。近^{ちか}くの人^{ひと}と1分^{ぶん}くらい話^{はな}してみてください。

少し話^{すこ はな}してみて、お互^{たが}いの考^{かんが}えがわかってきましたか？

校長先生^{こうちょうせんせい}は、「戦争^{せんそう}は悲^{かな}しくて、多^{おお}くの被害^{ひがい}が出る、ということ^{わす}を忘^{わす}れないようにするため。」ではないかと思^{おも}っています。戦争^{せんそう}のない社会^{しゃかい}が当^あたり前^{まえ}になったとき、思^{おも}い出^だすものがないと、なかなか当^{とうじ}時のこと^{こと}がイメージしにくいです。どれだけ大^{たいへん}変^{へん}だったのか、見^みただけで、一瞬^{いっしゆん}で想^{そうぞう}像^{ざう}できる、だから広島^{ひろしま}の人^{ひと}たちは「残^{のこ}そう」と思^{おも}ったのでしょう。

毎年^{まいとし}8月^{がつむいか}6日^{ひろしま ひら}に広島^{ひろしま}で開^{へいわきねんしきてん}かれてい「平和記念式典」これもおそらく同^{おな}じ理^{りゆう}由^{ゆう}です。過^か去^この過^{あやま}ちを1年^{ねん}に1回^{かい}は、国^{くに}全^{ぜん}体^{たい}でふりかえりをしよう、そして平和^{へいわ}の尊^{とうと}さを、世^せ界^{かい}に発^{はっしん}信^{しん}できる場^ばにしよう。そんな思^{おも}いが、続^{つづ}いている理^{りゆう}由^{ゆう}なのだと思^{おも}います。

平和記念式典^{へいわきねんしきてん}は、広島市^{ひろしまし}の小学^{しょうがく}6年^{ねんせい}生^{せい}が毎年^{まいとし}代^{だい}表^{ひょう}で「平和^{へいわ}へ^{ちか}の誓^いい」を言^いってくれます。昨^{さくねん}年^{ねん}の8月^{がつむいか}6日^いに言^いってくれた誓^{ちか}いの言^{ことば}葉^はで、6年^{ねんせい}生^{せい}代^{だい}表^{ひょう}が、

「過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために平和な広島を創ってくれました。」と伝えてくれました。感謝と、希望の心がつまった、強くてやさしい表現でした。今年の6年生は、どんな平和の誓いを話してくれるのか、期待をしています。

まとめます。

今日の平和登校日に、暑い中、学校に来て、平和について考えようとしてくれた、みなさんの気持ちがまず大事です。

そして、あと3つ「みなさんにしてほしいこと」があります。

1つ目は、「過去、つまり歴史から学ぶこと、そして覚えておくこと。」です。

被爆者や伝承者の人が、過去の苦しみを語ってくれます。いろいろな本で、この戦争がどのように始まったのか、人々はどんな暮らしだったのか、知ることもできます。それを忘れない。つまり覚えておく。いつでも引き出せるようにすることが大事です。

2つ目は、「理想の未来を考えること、そして行動すること。」です。広島の

「平和の誓い」は世界中の人がインターネットやテレビを通じて見えています。

平和な社会があれば、笑って過ごせる、豊かにくらせる、生きがいを持って生きることができる。いろいろな可能性が広がります。今すぐ行動できなくても、もう少し大きくなったら、大人になったら、できることは増えていくはずですよ。

3つ目は、「平和な社会は創れると信じること」です。日本は広島に原爆が落

とされた 1945年^{ねん}から、戦争^{せんそう}をしていません。約^{やく}80年^{ねんちか}近くの間^{あいだ}、世界^{せかい}のいたるところ^{あそこ}で争^{あらそ}いはありますが、日本^{にほん}の地^ちで争^{あらそ}いは起き^おていません。起き^おないよ^おうに努力^{どりよく}したから、平和^{へいわ}な社会^{しゃかい}は創^{つく}れると信^{しん}じ続^{つづ}けているからです。みなさんにも、「信^{しん}じる」こと^{こと}を続^{つづ}けてほしいです。

あさって、6日^{むいか}（日^{にち}）、校^{こう}長^{ちやう}先生^{せんせい}は、広島^{ひろしま}の平和^{へいわ}記念^{きねん}式^{しきてん}典^{でん}に参^{さん}加^かしてきます。自分^{じぶん}ができる行^{こう}動^{どう}の^{ひと}一つ^{おも}だと思^{おも}って、そして、平和^{へいわ}な社会^{しゃかい}を1日^{にち}でも長^{なが}く続^{つづ}けよう^{よう}と信^{しん}じなが^{あさ}ら、あさ^{むか}っての朝^{あさ}を迎^{むか}えたいです。もし、あさ^{あさ}っての朝^{あさ}、時^じ間^{かん}があれば、平和^{へいわ}への誓^{ちか}いだけ^みでも見^みて、聞^きいて、感^{かん}じて、そして戦争^{せんそう}や平和^{へいわ}につ^いてもう^{いちど}一^かんが^が考^{かんが}えてほしいです。

みなさんも、先^{さき}ほどの「学^{まな}ぶこと・覚^{おぼ}えておくこと」「考^{かんが}える・行^{こう}動^{どう}すること」「信^{しん}じること」の3^{みつ}つを大^{たい}切^{せつ}にしてほしいです。この後^{あと}は、各^{かく}学^{がく}級^{きゅう}でビデオ^みを見^みて、平和^{へいわ}につ^いて考^{かんが}え^{ふか}を深^{ふか}めてください。

これで、校^{こう}長^{ちやう}先生^{せんせい}からの、平和^{へいわ}登^{とう}校^{こう}日^びのお話^{はなし}を^お終^はわります。